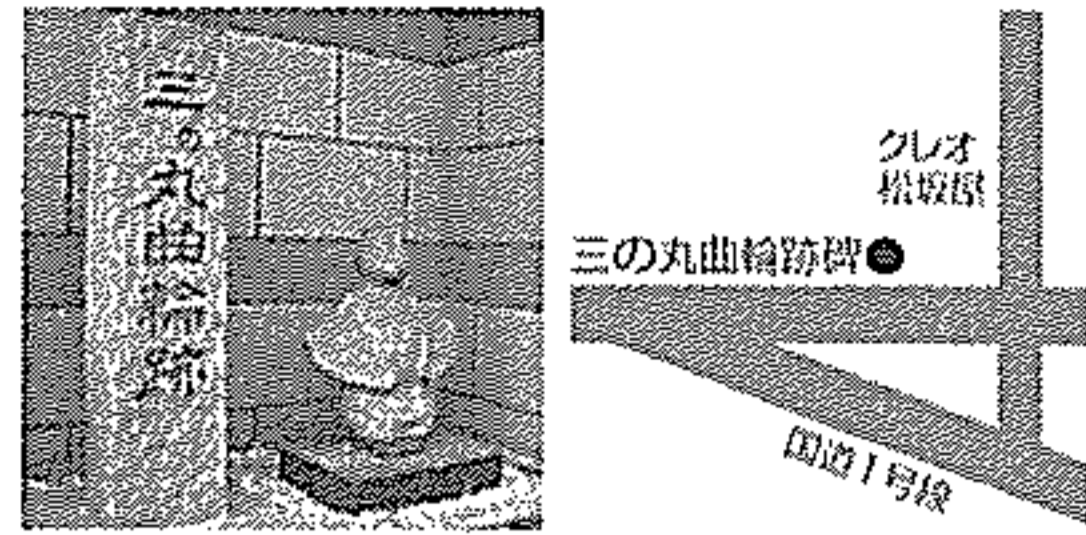


康生いったい

三の丸曲輪(くるわ) 跡碑

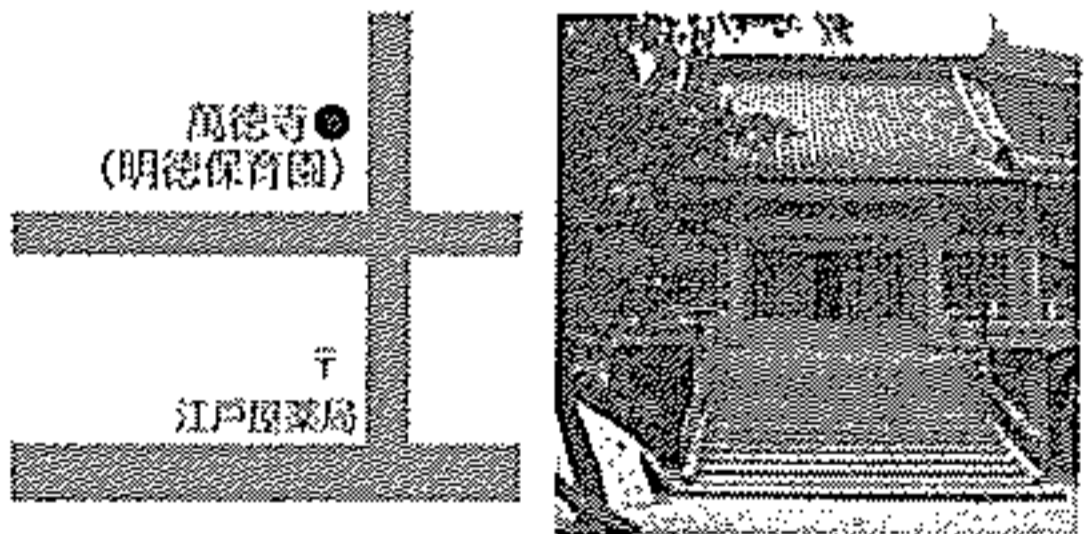


クレオ・松坂屋のビルの南西に「三の丸曲輪跡」の碑が建っています。曲輪とは堀や土塁で囲まれた地域のことで、三の丸には岡崎藩の重臣たちの屋敷が建ち並んでいました。碑の作者は岡崎を代表する石彫家・鈴木政夫氏です。1971年(昭和46年)のビルの竣工にあわせ、歴史ある岡崎城三の丸を核とした中心市街地の再開発を記念し建立されました。

■岡崎市康生通西3丁目

東岡崎駅周辺

萬徳寺(まんとくじ)

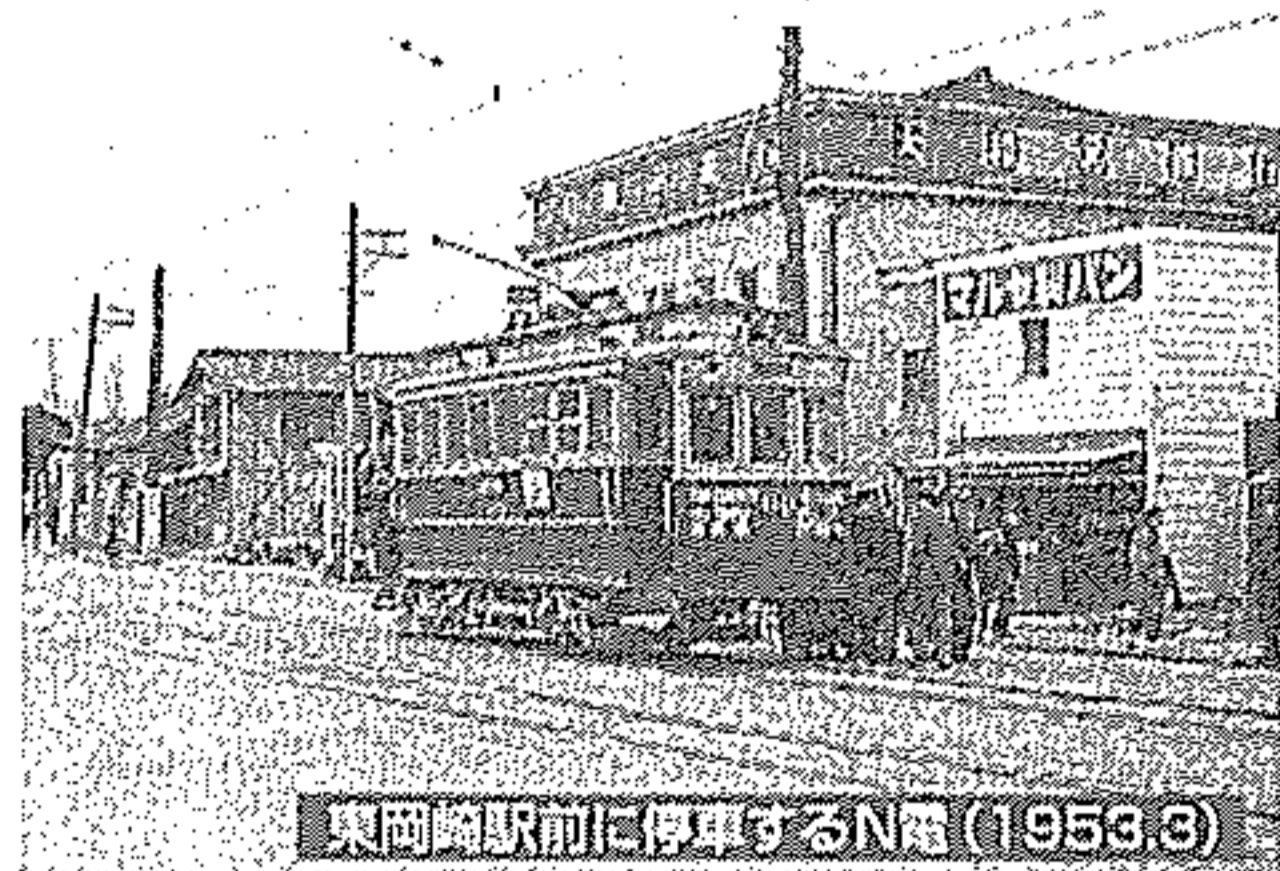


東西交通の要衝に位置する岡崎は、鎌倉幕府にとって第2の本拠地といえる土地でした。萬徳寺は鎌倉時代の三河国守護職・足利義氏の館の跡と伝えられています。館は将軍や皇族が街道を行き来する時の宿泊場所となりました。江戸時代の萬徳寺は学問の寺として知られ、24世住職の本田了祥は、親鸞の「歎異抄」を科学的な目で研究し、「歎異抄聞記」を著しました。

■岡崎市明大寺本町3丁目33

京都出員の岡崎市電

東岡崎駅前に停車するこの市電、どこかで見た気がしませんか。そう、博物館「明治村」の人気者、京都市電と同じ形の車両です。第二次世界大戦の敗戦間際のこと、1945年(昭和20年)7月19日の空襲で、岡崎の市電も大きな被害を受けました。全14両のうち7両が焼失してしまったのです。そこで急ぎよ、名古屋市電から譲り受けたのが、5両の旧京都市電でした。明治村の京都市電は路面電車草創期のイメージを伝えるため、運転席前面の窓が撤去され、救助網も大型化されていますが、採光のため2段に作られた屋根は下の写真の市電と同じです。この5両はもともと京都市電であったことから、社員の間で「本願寺」と呼ばれていたそうです。今春放送のNHK連続テレビ小説「純情きらり」の舞台は、戦前から戦後の岡崎。ちょうど同じ時代になりますね。



※写真は「路面電車と街並み 岐阜・岡崎・豊橋」より転載

■発行

電車どおり4商店街

- 本町通三丁目商店街振興組合
- 岡崎銀座商店街振興組合
- 殿橋通発展会
- 岡崎明大寺商店街振興組合

■協力

岡崎商工会議所
岡崎市観光協会

■編集協力

三河・岡崎のタウン誌「リバーシブル」
岡崎江戸仲間



2006年(平成18年)1・2月(第3号)

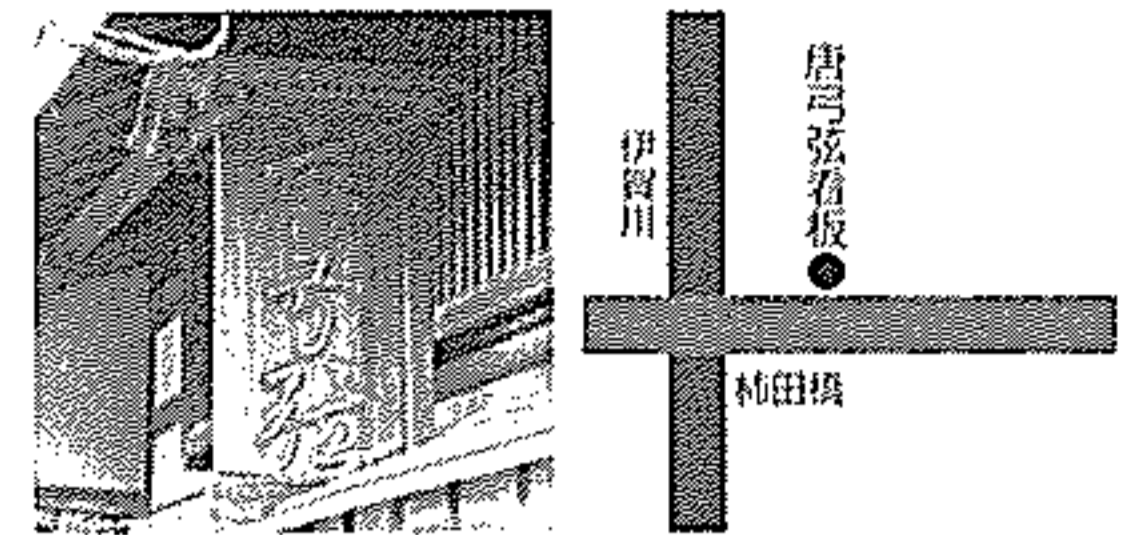
電車どおりの住民が
ご近所のネットワークを活かし
ます歩きを楽しくする
オススメのポイントをご紹介します。

05年は
たいへんお世話に
なりました。
電車どおり
4商店街を
06年も
よろしく
お願いいたします。



本町がいわい

唐弓弦(とうゆみづる)看板

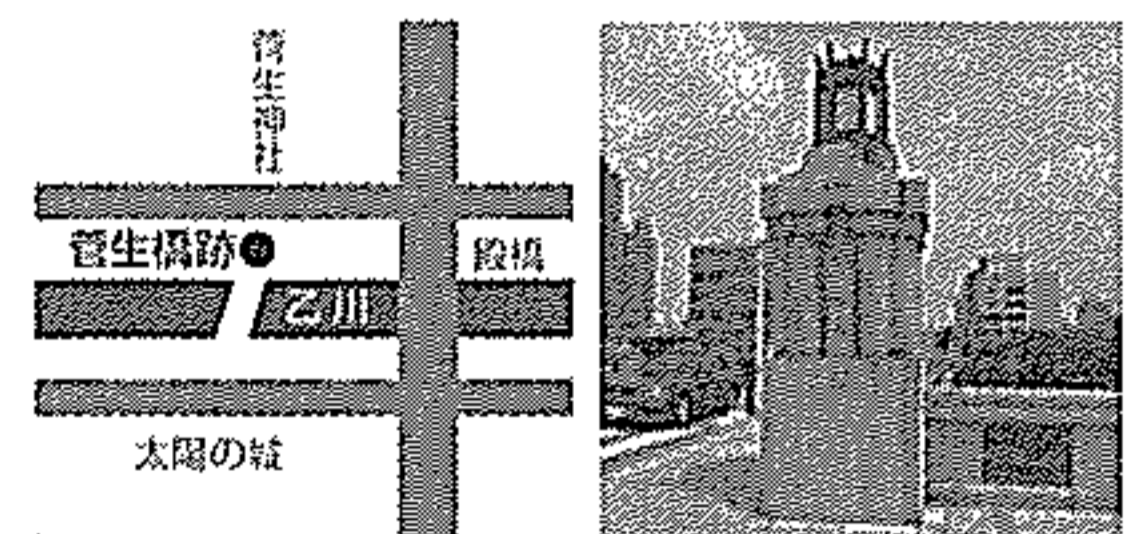


江戸時代の岡崎は木綿の一大産地でした。綿を栽培し布に仕上げ、江戸で販売をしていたのです。製品化の技術も発達し、岡崎で作られた加工道具は評判の品でした。唐弓弦とは綿をなめらかにする綿打ち道具のことで、東海道を行き交う旅人が故郷へのお土産に買って求めたといわれています。厚い一枚板に唐破風の屋根の付いた看板は江戸の風情をしのばせます。

■岡崎市材木町3丁目

殿橋のたもと

菅生橋(すごうばし)跡



菅生橋は今の殿橋の元となった橋の名前です。1645年(正保2年)に、当時の藩主本多忠利により、菅生神社と太陽の城を結ぶ位置に、河川改修とあわせて架橋されました。殿様が架けた橋であることから、俗称を殿橋と言ったと伝えられています。現在の橋は1927年(昭和2年)に架設され、御影石製の親柱は、今は点灯しませんが照明付きのモダンなものでした。

■康生通南・明大寺本町